

2006年10月18日発行

石川県ブリ情報

(対象期間：2006年10月～翌年3月)

石川県水産総合センター TEL0768-62-1324 FAX0768-62-4324

フクラギ・・・前年を上回り、平年を下回る
ガンド・・・前年・平年を下回る
ブリ・・・前年並み、平年を下回る

※「平年」とは、過去10年(1996～2005年)の平均漁獲量です。

ブリの漁獲状況と本年10月から翌年3月の定置網による漁獲の見通しについてお知らせします。

フクラギ(当歳魚 2006年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による7、8月の漁獲量は136トンで、前年(444トン)及び平年(190トン)を下回りました。

今後の予測

- ① 今年7、8月のコゾクラの漁獲量が前年よりもやや低調に推移しましたが、九州・山陰でのモジャコ漁が後半に好転したことから、10月以降の漁獲に期待が持てます。
- ② また、富山湾の9月の0-50m平均水温(富山水試；富山湾の漁況・海況概要)が高ければ、本県の漁獲量が多くなる傾向が認められます。この回歸式から前年をやや上回る漁獲が期待されます。

「定置網による漁獲量は前年(270トン)を上回り、平年(421トン)を下回る」と予測されます。

ガンド(1歳魚 2005年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網による4～8月の漁獲量は164トンで、前年(213トン)及び平年(182トン)を下回りました。

今後の予測

- ① 4～8月の京都府～青森県までの漁獲量は、全般的には前年と比べて低調であり、資源状態はあまり良くないと考えられます。
- ② さらに、今年11月の佐渡沖冷水の張り出しは「やや弱い」状態で経過すると予測されており*、このことから本県沿岸への来遊条件が良くないため、今冬の漁獲はあまり期待できません。

「定置網による漁獲量は前年(329トン)及び平年(73トン)を下回る」と予測されます。

ブリ(2歳以上魚 2004年以前生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網による4～8月の漁獲量は468トンで、前年(162トン)及び平年(135トン)をかなり上回りました。(今冬に5～6kg前後になる2歳魚主体)

今後の予測

2004年生まれ(2歳魚、5～6kg前後、中ブリ)

- ① 北上回遊期(4～8月)の京都府～富山県までの漁獲量は、平年をかなり上回り好漁でした。昨冬から本県の定置網やまき網で漁獲が好調なことから、中ブリの本州日本海側中部における資源水準は高いと考えられます。
- ② 一方、新潟県～青森県までの定置網による漁獲量は、全般的に前年と比べて低調でした。
- ③ 本州日本海側中部に分布するブリ及び夏季に新潟県以北へ回遊したブリの越冬群が漁獲の主体になると想定されるため、期待はやや薄いと考えられます。

2003年以前生まれ(3歳以上魚、10kg前後以上、大ブリ)

- ① 北上回遊期(4～8月)の漁獲量は、新潟県、山形県、青森県で低調に終わりました。
- ② 夏季に新潟県以北へ回遊したブリの南下群が漁獲の主体になると想定されるため、期待は薄いと考えられます。

海況条件

- ① 10～12月の日本海西区の50m深平均海水温が高いと、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられますが、今後の日本海西部の50m深海水温は「やや低め」で経過すると予測されています*。
- ② また、11月に入道埼沖合冷水域が接岸傾向にあれば、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられますが、入道埼沖合冷水域の張り出しは「弱め」で経過すると予測されており*、本県への南下来遊の海況条件はあまり良くないと判断されます。

以上のとおり、3歳魚以上の資源水準は低く、海況条件も良くないことから、大ブリはあまり期待できないと考えられます。一方、中ブリは資源状態が比較的良いことからやや期待できると考えられます。

「定置網による漁獲量は平年(313トン)を下回り、前年(262トン)並み」と予測されます。

※「日本海海況予報」：平成18年10月4日、(独)日本海区水産研究所発表

2007年10月17日発行

石川県ブリ情報

(対象期間：2007年10月～翌年3月)

石川県水産総合センター TEL0768-62-1324 FAX0768-62-4324

フクラギ・・・前年を下回り、平年を上回る
ガンド・・・前年を上回り、平年を下回る
ブリ・・・前年を下回り、平年並み

※「平年」とは、過去10年(1997～2006年)の平均漁獲量です。

定置網漁業によるブリの漁獲状況と本年10月から翌年3月までの漁獲の見通しについてお知らせします。

フクラギ(0才魚 2007年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による7、8月の漁獲量は191トンで、前年(135トン)及び平年(172トン)を上回りました。

今後の予測

- ① 今年7、8月のコゾクラの漁獲量は前年・平年をやや上回って推移し、九州・山陰でのモジャコ漁が後半にやや好転したことから、10月以降の漁獲に期待が持てます。
- ② また、富山湾の9月の0-50m平均水温が高ければ、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられます。当該水温が高めであることから、平年を上回る漁獲量が期待されます。

「定置網による漁獲量は前年(515トン)を下回り、平年(437トン)を上回る」と予測されます。

ガンド(1才魚 2006年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月の漁獲量は205トンで、前年(164トン)及び平年(192トン)を上回りました。

今後の予測

- ① 4～8月の京都府～青森県までの漁獲量は全般的に前年を上回り、資源状況は良いと考えられます。
- ② 一方、11月の佐渡沖冷水の張り出しは「やや弱い」状態で経過すると予測

されており*、本県沿岸への来遊条件は良くないと考えられます。このため、今冬の漁獲量は平年には及ばないものの、前年を上回ると予想されます。「定置網による漁獲量は前年（24トン）を上回り、平年（70トン）を下回る」と予測されます。

ブリ(2才以上魚 2005年以前生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月の漁獲量は118トンで、前年（468トン）及び平年（171トン）を下回りました。

今後の予測

資源状況

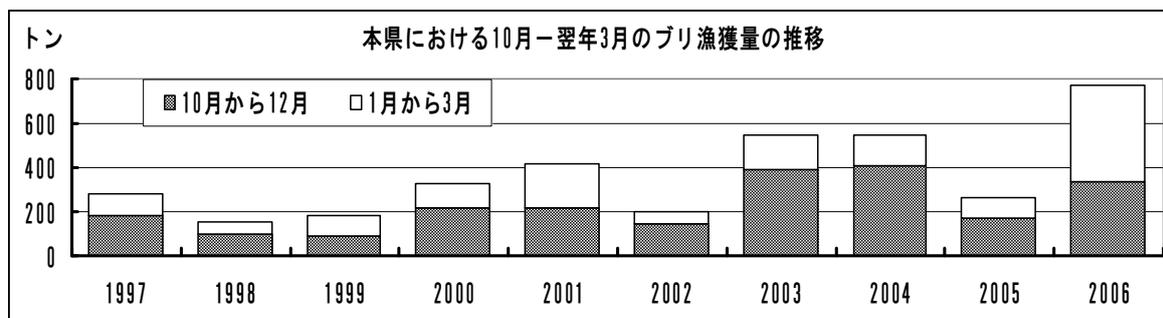
- ① 北上回遊期（4～8月）の京都府～青森県までの漁獲量は全般的に平年を下回りました。今年、5～6kg前後になる中ブリの石川県以北の資源水準は、昨年度の漁況から、平年よりも低いと推定されます。
- ② 一方、今年、10kg前後以上になる大ブリについては、昨冬の中ブリの漁獲量が非常に好調に推移したことから、今冬に再び富山湾へ来遊することが予想されます。

海況条件

11月に秋田県男鹿沖に形成される入道埼沖合冷水域が接岸傾向にあれば、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられます。入道埼沖合冷水域の張り出しは「弱め」で経過すると予測されており*、本県への南下来遊条件はあまり良くないと考えられます。

以上のことから、中ブリの今冬の漁獲量は、資源状況に加えて海況条件も良くないため、前年及び平年を下回ると予想されます。一方、大ブリの今冬の漁獲量は、資源状況が良いことから、平年を上回ると予想されます。全体として、平年並みの漁模様と予想されます。

「定置網による漁獲量は前年（770トン）を下回り、平年（369トン）並み」と予測されます。



※ 「日本海海況予報」：平成19年10月9日、(独)日本海区水産研究所発表

2008年10月21日発行

石川県ブリ情報

(対象期間：2008年10月～翌年3月)

石川県水産総合センター TEL0768-62-1324 FAX0768-62-4324

フクラギ・・・前年を下回り、平年並み
ガンド・・・前年を上回り、平年並み
ブリ・・・前年及び平年を上回る

※「平年」とは、過去10ヵ年（1998～2007年）の平均漁獲量です。

県内のブリの漁獲状況と本年10月から翌年3月までの定置網による漁獲の見通しについてお知らせします。

フクラギ(0才魚 2008年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による7,8月の漁獲量は141トン（前年比74%、平年比78%）で、平年をやや下回りました。

今後の予測

「前年(515トン)を下回り、平年(434トン)並み」と予測されます。

[予測の根拠]

- ① 京都府から新潟県における7,8月のコゾクラ漁獲量は、平年をやや下回りました。漁期始めがやや低調な結果となりましたが、九州・山陰でのモジヤコ漁（(社)全国海水養魚協会）が堅調な結果に終わっていることから、日本海への加入状態は悪くないものと推測されます。
- ② 本県では、漁期始めの漁獲量が平年を下回った年の方が、10月以降の漁獲量が多くなる傾向があります。
- ③ また、富山湾の9月の0-50m平均水温（富山水試；富山湾の漁況・海況概要）が高いと、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられます。この回帰式から450トンと見積もられました。

ガンド(1才魚 2007年生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月の漁獲量は383トン（前年比173%、平年比148%）で、やや好漁でした。

今後の予測

「前年（16トン）を上回り、平年（58トン）並み」と予測されます。

【予測の根拠】

資源状態

- ① 昨年のフクラギの漁獲状況から、本県以北におけるガンドの資源水準は、過去10ヵ年で中位にあると推定されます。
- ② 富山県、新潟県の定置網漁業による4～8月の漁獲量も、前年・平年を上回っていることから、本県周辺海域への来遊状態は良いと考えられます。

海況条件

- ③ 一方、今年の11月の佐渡沖冷水の張り出しは「やや弱い」状態で経過すると予測されており※、本県沿岸への来遊条件は良くないと考えられます。
- ④ 「石川県、富山県への来遊量を示す指数」と「佐渡沖冷水の勢力を示す指数」を用いて、県内漁獲量を予測した結果、55トンと見積もられました。

※平成20年度第3回日本海海況予報（日本海区水産研究所）より

ブリ(2才以上魚 2006年以前生まれ)

漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月の漁獲量は429トン(前年比363%、平年比243%)で、好漁でした。

今後の予測

「前年（227トン）及び平年（369トン）を上回る」と予測されます。

【予測の根拠】

資源状態

- ① 昨年のガンド・ブリの漁獲状況から、本県以北における中ブリ（5, 6kg前後）と大ブリ（10kg前後以上）の資源水準は、両者とも過去10ヵ年で高位にあると推定されます。
- ② 北上回遊期（4～8月）の漁獲量は、本県以北では、全般的に平年を上回る結果となっています。

海況条件

- ③ 11月に秋田県男鹿沖に形成される入道埼沖合冷水域が接岸傾向にあれば、本県の漁獲量が多くなる傾向がみられます。今年の入道埼沖合冷水域の張り出しは「平年並み」で経過すると予測されており※、本県沿岸への南下来遊の条件は悪くないと考えられます。

2009年10月26日発行

平成21年度石川県ブリ情報

石川県水産総合センター TEL0768-62-1324 FAX0768-62-4324

フクラギ・・・平年並み、 ガンド・・・平年を上回る ブリ・・・平年並み（来遊時期も平年並み）

※「平年」とは、過去10ヵ年（1999～2008年）の平均漁獲量です。

県内のブリの漁獲状況と本年11月から翌年3月までの定置網による漁獲の見通しについてお知らせします。

◇フクラギ(0歳魚 2009年生まれ)

1. 漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による7,8月の漁獲量は170トン(前年比119%、平年比89%)で、平年並みでした。

2. 今後の漁獲量予測 「平年(298トン)並み」と予測されます。

[予測の根拠]

- ①九州・山陰でのモジャコ漁が堅調な結果に終わった((社)全国海水養魚協会)ことから、日本海への加入状態は悪くないものと推測される(+要素)。
 - ②本県では、漁期始め(7月)の漁獲量が平年を下回った年の方が、10月以降の漁獲量が多くなる傾向がある。今年は平年並みだった(±要素)。
 - ③一方、富山湾の9月の0-50m深の平均水温が低いと、本県の漁獲量が相対的に少なくなる傾向にあり、今年は平年よりもかなり低かった(-要素)。
- 以上のことから、③の富山湾内での漁場形成にやや不安があるものの、①②の日本海および本県沿岸への加入状態を考慮して、平年並みの漁獲量と予測しました。

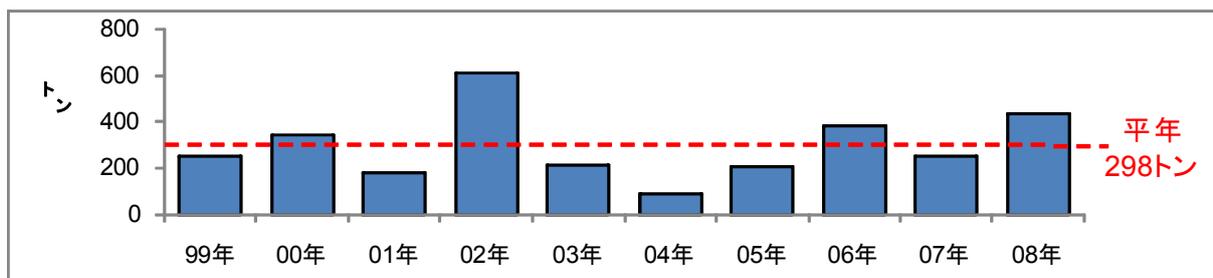


図1. 11月～翌年3月の漁獲量の推移(0歳魚)

◇ガンド(1歳魚 2008年生まれ)

1. 漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月のフクラギ漁獲量は383トン(前年比106%、平年比170%)で、やや好漁でした。

富山・新潟県の定置網漁業による4～8月の漁獲量も、平年をやや上回った。

2. 今後の漁獲量予測 「平年(50トン)を上回る」と予測されます。

[予測の根拠]

- ①前年のフクラギの漁獲状況から、石川県、富山県における来遊量指数(資源水準)は、過去10ヵ年で「中位」にあると推定される。
- ②11月に佐渡沖冷水域の張り出しが大きければ、本県の漁獲量が相対的に多くなる傾向にあり、今年は、ここ2,3年弱めであった張り出しが「平年並み」で経過すると予測されている*¹(+要素)。
- ③「石川県、富山県への来遊量を示す指数」と「佐渡沖冷水の勢力を示す指数」の関係式から、県内漁獲量を予測した結果、128トン(平年を上回る)と算出された。

以上のことから、本県周辺海域への来遊状態は良いと考えられ、平年を上回る漁獲量と予測しました。

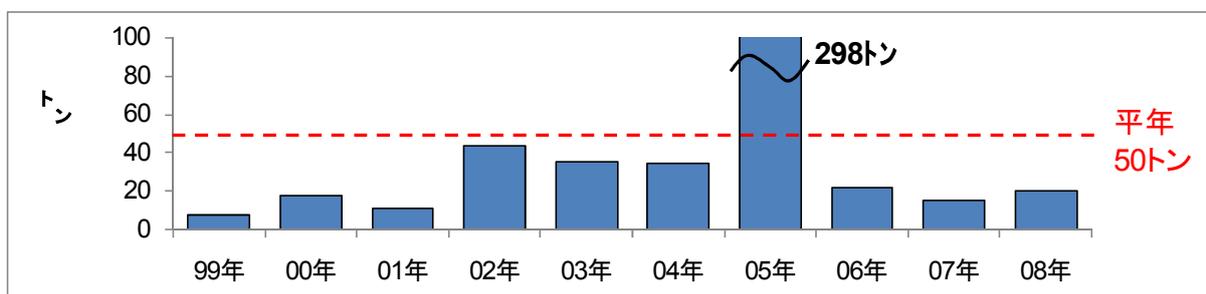


図2. 11月～翌年3月の漁獲量の推移(1歳魚)

◇ブリ(2歳魚以上 2007年以前生まれ)

1. 漁獲の状況

県内主要10港の定置網漁業による4～8月の漁獲量は429トン(前年比90%、平年比183%)で、やや好漁だった。

北上回遊期(4～8月)漁獲量は、本県～秋田県では、概ね平年を上回った。

2. 今後の漁獲量予測 「平年並み(389トン)、来遊時期も平年並み」と予測されます。

[予測の根拠]

- ①本県では、夏期に北海道・青森県沖合で過ごし、秋期から冬期に南下回遊してきたブリの群れを主に漁獲対象としている。

- ② 本県のブリ漁獲量の年変動には、本県以北における来遊量指数(資源水準)、および秋田県男鹿沖に形成される 11 月の入道埼沖冷水域の勢力が関係していると考えられる。
 - ③ 前年の本県以北における漁獲状況から、来遊量指数は、過去 10 カ年で「中位」にあると推定される。
 - ④ 今年の入道埼沖冷水域の張り出しは「平年並み」で経過すると予測されており^{※1}、本県沿岸での漁場形成は悪くないと考えられる(土要素)。
 - ⑤ 「本県以北への来遊量を示す指数」と「入道埼沖冷水の勢力を示す指数」の関係式から、県内漁獲量を予測した結果、380 トン(平年並み)と算出された。
 - ⑥ ただし、気象庁によれば、今年はエルニーニョ現象が発生しており、冬まで続く可能性もある。これにより、海水温が高めに推移した場合、漁獲量は予想よりも下回ると考えられる。ガンドも同様。
 - ⑦ ブリの南下回遊時の主な遊泳水温(指標)である 18℃の水温分布(11 月)が南寄りに位置すると本県沿岸でのブリの来遊時期が早くなる傾向にある。今年の 11 月中旬の位置は佐渡周辺に予測されていることから^{※2}(図 4)、初漁日は、昨年および一昨年(青森沖に位置)より早く、11 月下旬から 12 月上旬(平年並みの来遊時期)になると考えられる。
- 以上のことから、エルニーニョ現象の動向に不安があるものの、平年並みの漁獲量・来遊時期と予測しました。

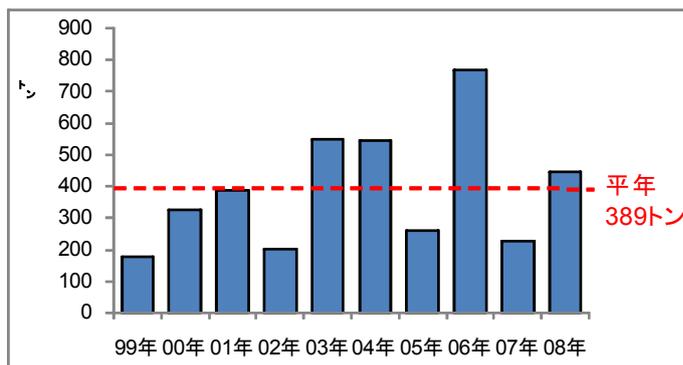


図 3. 11 月～翌年 3 月の漁獲量の推移
(2 歳魚以上)

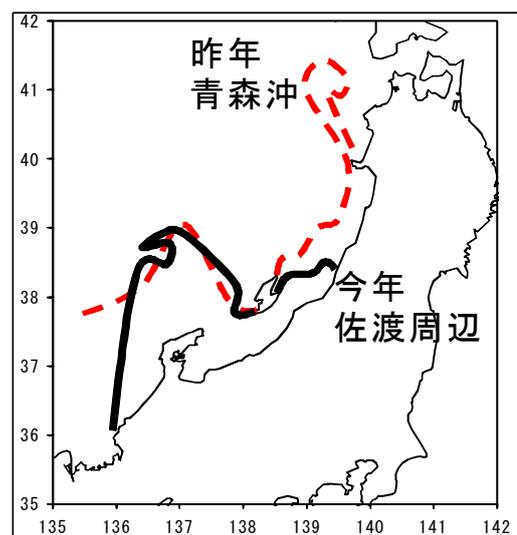


図 4. 11 月の 18℃等温線の位置
(実線：今年の予測、点線：昨年)

※1 平成 21 年度第 3 回日本海海況予報(日本海区水産研究所)より

※2 日本海海況予測システム JADE(日本海区水産研究所)より